



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	petari から
Relation	第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書 II ワークショップの記録 「人社系が参画・先導する学際プロジェクトとは」
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83461
Type	conference presentation
File Information	JF6_hokudai_2-5_QA.pdf



petari から

Q：理系のやり方を文系に適用させるのは良くない、というご意見が鈴木先生からありましたが、個人的には、理系のやり方というよりは「できうる限り客観的な手法で法則を定立させる」ことが科学の目標だという学問の共通理解？のようなものは重要ではないかと思います（それがないと、文系研究もすたれていってしまうのでは？という気がします）。

鈴木 一人 — 「科学」というのは客観的な法則で成立させるというのが目標なのだから、文理問わず共通理解ではないのかというご意見だと思います。それは確かにそうなのですが、例えば、理系では実験によって客観性を担保することになりますが、社会科学では実験ができないのです。実験をやらないとエビデンスが取れないという考え方と、社会科学とでは、全く話が合わないんです。つまり、何が科学かということ自体、分野によって違いがあり、自然科学、社会科学、人文科学の間で、客観的手法と言っても、じゃあ何をもって客観的なのかという定義がとても難しい。それを言い始めると神学論争で終わってしまうので、やめたほうがいいというのが私のコメントです。

〈参加者からの意見・感想等〉

- ・プロジェクトの主体はだれかを考える必要がある。
- ・研究者にとって魅力的な研究とはという点から考えると、自然な文理融合がベストとなる。
- ・研究者を若手の頃から支援すると、研究者と研究支援者の距離を縮めることにつながる。文系の大学院生への支援を考えることも重要。
- ・テーマ主導だと、人社系の研究者も入りやすい。
- ・意志に関わらず巻き込まれたプロジェクトには、理系でも動機づけが弱くて成果が出にくかった経験がある。
- ・グループ1の「人社主導のドリームプロジェクト」という切り口が大変面白かった。

- ・グループ8が、研究者の在り方に着目して、人社が関与するプロジェクトの在り方を考えるのは、非常に興味深い。

